

第52回

応募要項を発表

全国造園デザインコンクール

全国造園デザインコンクールは、造園のデザインと製図技術の向上を目的に昭和 49 年にはじまりました。その後、応募課題を拡充するなど、美しい国土と安心・安全で快適な生活環境を実現する多様な造園空間を対象に、デザイン、設計技術、表現手法の向上を図り、次世代を担う青年の造園に対する興味を醸成し、入職促進に寄与することを目的として毎年実施しています。このたび第 52 回応募要項を日造協ホームページに掲載したほか、全国の高校・大学など教育機関などに配布しました。

第 52 回全国造園デザインコンクールは、日造協の主催で（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会と共催し、文部科学省、国土交通省、NHK、全国農業高等学校長協会、（公社）日本造園学会、（公財）都市緑化機構の後援（申請中）を受けて実施します。応募は、高校生の部と大学・一般の部の 2 つで、造園に関する科目履修者や造園に興味を持つ高等学校、大学、大学院、短期大学、専門学校等の生徒・学生及び造園の設計・施工管理などに従事している方を対象に応募を受け付けます。

応募課題は、下記の A から E の 5 部門で構成しています。

- A「住宅庭園」個人住宅の庭園
  - B「街区公園」街区公園
  - C「商業施設」商業施設の屋外空間
  - D「実習作品」作庭、駅前・街角などの広場、緑道、校庭緑化、植物を使用したモニュメント・ディスプレイ（生け花、フラワーアレンジメントは除く）などで、高校・大学などの学生・生徒に限る
  - E「緑化フェア（みどりの広場）プラン」全国都市緑化フェア「みどりの広場」のプラン作成で、高校 1、2 年生に限る
- 応募作品の表彰は、高校生の部で最も指導力の優れた高等学校を対象とする「文部科学大臣賞」（1 校）、全作品の中で総合的に最も優れた作品「国土交通大臣賞」（1 点）をはじめとする特別賞を全 7 点選出するほか、高校生の部、大学・一般の部ごとの「入賞」「佳作」について表彰いたします。

応募作品の審査は各部門とも、近年はデザイン、設計技術、表現手法だけでな



作品募集リーフレット

く、社会情勢の変化などを踏まえた新しいアイデアを取り入れた作品を加点評価することとしています。

第 52 回コンクールの応募期間は、令和 8 年 1 月 5 日から 1 月 15 日（当日消印有効）まで。作品の審査は、令和 8 年 1 月 25 日に行われ、2 月 1 日に審査結果を日造協ホームページで発表。表彰式は令和 8 年 2 月 21 日（土）東京グリーンパレスでの開催を予定しています。

また、今年度も、引き続きさらにより多くの方々に当コンクールを知っていたくために、リーフレットを作成しました。こちらは第 40 回コンクールで国土交通大臣賞を受賞し、現在イラストレーターとして活躍されている宮師鈴さんにデザインいただいています。今回もより多くの作品の応募を期待しています。

令和 7 年度 国土交通大臣表彰

日造協 8 氏受賞 多年造園工事業に精励・業界の発展に寄与

国土交通省は 7 月 9 日付で、令和 7 年度の国土交通大臣表彰受賞者を表彰した。

日造協関係者からは 8 氏が都市計画事業関係で「多年造園工事業に精励するとともに関係団体の役員として（地方）業界の発展に寄与した」ことから、国土交通大臣表彰を受賞した。

表彰式は 7 月 10 日、東京都千代田区霞が関の国土交通省共用大会議室で行われ、今年度は 239 人、3 団体が表彰された。

なお、国土交通大臣表彰の表彰分野は、

収用委員会等、総合建設業、専門工事業、不動産業、測量事業等、建設機械、都市計画事業、河川事業、道路事業、住宅・建築事業、優良団体となっている。

- 〈都市計画事業関係〉
- 井上 恒治（62 歳）鹿児島県鹿児島市 井上総合緑化建設㈱ 代表取締役
  - 鵜池 邦敏（65 歳）佐賀県佐賀市 ㈱鵜池造園 代表取締役
  - 四宮 繁（55 歳）北海道札幌市 ㈱四宮造園 代表取締役社長
  - 田中 資康（60 歳）茨城県水戸市

樹林

（一社）日本造園建設業協会理事  
㈱柳島寿々喜園 代表取締役 鈴木 義人

造園建設業の委託（管理）契約の問題点



日造協ニュースの中の「樹林」の執筆を依頼されました。

そこで、今回は、最近気になっている公契約条例、委託（管理）契約と最低賃金、更に造園業で生計を立てるとい

う問題について考えてみました。

公共造園建設業の発注方法は大きく分けて、工事契約と委託（管理）契約という発注方法があります。

公契約条例は 2009 年に千葉県野田市で初めて制定されました。

この条例は地方自治体が工事契約や委託（管理）契約を発注する際に、契約に従事する労働者の賃金や労働条件などを定めるために、自治体が独自に制定する条例のことで、これにより、公共事業の透明性や公平性を確保し、地域経済の振興や労働者の権利保護を図ることが目的とされています。

その中の一つとして、民間の契約者に対して最低賃金の遵守や労働条件の改善を求めることが一般的とされています。

弊社が営む地域でも 2024 年 4 月より全面施行されました。

委託（管理）契約とは、特定の業務やサービスを外部業者に依頼するための契約で、公共機関や民間企業が利用する一般的な方法であり、契約の内容、業務範囲、期間などが明記されています。

委託契約を締結する際に契約者がその下で働く全ての労働者の最低賃金以上を確保しなければならず、そこに受注金額との問題が生じてきます。

発注者は入札額の下限は設けないのであるが、受注業者はその委託（管理）契約上の仕事で働く全ての労働者に最低賃金以上の金額を支払わなければ法律違反となります。

造園建設業の委託（管理）契約は、現在でも最低制限価格を設けている自

治体は少なく、いくらでも安値受注が出来ているのが現状ですが、公契約条例との整合性が問われるのではないだろうか

と指摘したいところです。

過去には弊社も、国道や都道の管理（維持工事）を請負っていましたが、近年は求められる管理水準や、近隣住民からの多くの要望、また、交通渋滞の発生頻度などにより難易度が年々高くな

ってきています。

また、それに追い打ちをかけるように、協力業者の高齢化、地球温暖化による夏の酷暑の影響で作業可能な時間の減少など問題が山積みとなり、請負える仕事も減少してきています。

別の視点では、例えば街路樹の管理は最低制限価格がないため、他業種と安値受注合戦を行うことは常で、他業種はチェーンソーなどで街路樹を剪定し、道路の景観を損なっているように思

います。

現在はまだ元気な造園業者はいますが、大半の造園業者はこの現状に手をこまねいて

みています。

このまま受注合戦が続けば、過去受注していた優秀な造園業者や造園工はいなくなり、その時点で対処するのは遅すぎると

思います。

何故なら、優秀な人材を育てるには豊富な資源や時間が不可欠で、安値受注をしている現状では造園業で生計を立てる事が出来なくなる現実が間近に

感じられるからです。

このことは全国共通の課題だと思います。私見ですが委託（管理）契約での最低制限価格が設けられないのであれば、委託（管理）契約に公契約上条例を適用して

みてはいかがでしょうか。

造園建設業として成り立つ夢のある未来を協会の一員として皆様と共有し

- ㈱タナカ築庭 代表取締役社長  
田丸 敬三（55 歳）東京都世田谷区  
東光園緑化㈱ 代表取締役社長  
西尾 倫顕（60 歳）富山県小矢部市  
㈱越路ガーデン 代表取締役

- 西谷 勝之（65 歳）鳥取県米子市  
山陰緑化建設㈱ 代表取締役社長  
橋本 正（65 歳）青森県八戸市  
㈱香月園 代表取締役



井上 恒治 氏



鵜池 邦敏 氏



田丸 敬三 氏



西尾 倫顕 氏



四宮 繁 氏



田中 資康 氏



西谷 勝之 氏



橋本 正 氏



# 第17回 造園技術フォーラム 大阪で開催

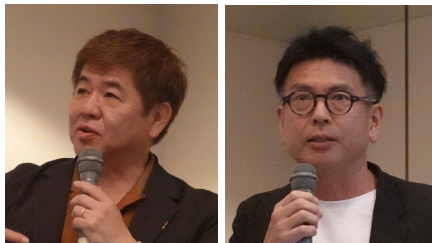
日造協は7月3日、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に合わせて、「第17回 造園技術フォーラム」を大阪市中央区・KKRホテル大阪にて開催し、約190名、オンラインでは約130名と多数参加いただいた。造園技術フォーラムは、会員企業や造園学会が実施してきた造園技術に関わる調査研究の成果を報告し、情報を共有することで、会員企業のみならず、造園業界の技術力の向上を目的に開催しており、今回で17回目となる。フォーラム後は、造園技術に関わる関係者の意見交換のために交流会も開催しました。本号では第1部の発表の概要を紹介します。日造協会員の皆様は、会員専用サイト内の「デジタル図書館」より、第1部の動画をご覧ください。検索画面にて「検索したいキーワード」を入力し、検索してください。



フォーラムの冒頭あいさつする和田新也会長

当日は午後1時より、造園技術フォーラム部会の河野友和氏を司会に、和田新也会長が開会に当たり「本日は全国各地から多くの方にご参加いただき、会場にお集まりいただいた人数はこれまでで一番多く、フォーラムの意義が皆さまに

ご理解いただけ、嬉しく思っています。フォーラムは多くの方々のご協力によって開催されており、日本造園学会からは発表と講評をいただき、さらに今回は、第2部で、大阪万博、グラングリーン大阪のランドスケープについてもお話をい



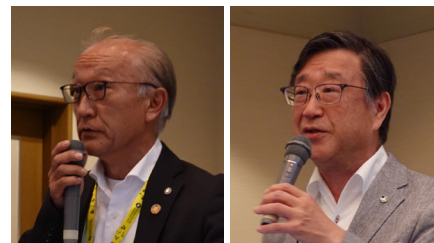
忽那 裕樹氏

小松 良朗氏

ただくこととなっています。聴講される皆様におかれましては、発表される情報を今後の業務の中で広く役立てていただければ幸いです。また、フォーラム終了後には大阪府支部主催の交流会も予定されています。交流の輪が広がり、情報の一層の共有が進むことを期待しています」とあいさつ。

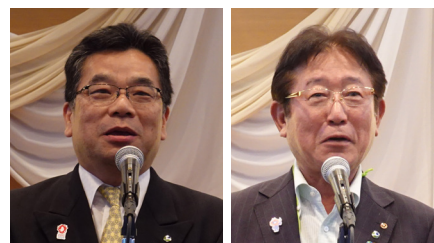
その後、第1部として中部総支部をはじめ4つの技術発表、日本造園学会からの発表と講評（別掲）をいただき、第2部では未来の防災都市の2025大阪・関西万博開催記念講演として、「EXPO2025 大阪・関西万博のランドスケープについて」忽那裕樹氏 E-DESIGN 代表取締役、「グラングリーン大阪のランドスケープについて」小松良朗氏 日建設計ランドスケープ設計部長より、ご講演いただきました。

その後、来秋開催の第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波について、京都府亀岡市の清水由士全国都市緑化フェア推進室長よりご紹介いただき、技術委員



清水 由士 室長

伊藤 幸男 委員長



中島祥之 総支部長

井内優 副会長



大阪締めを行う奈須正典支部長の伊藤幸男氏のあいさつで午後5時に閉会しました。

また、交流会は約150名が参加して午後5時半に開会。開催地を代表して、中島祥之近畿総支部長があいさつ。井内優副会長が乾杯を発声し交流の場となり、閉会にあたり、奈須正典大阪府支部長が大阪締めを行い閉会しました。

## 企業緑地における地域性草地創出の取り組み

【中部総支部】 大島造園土木(株) 西尾 友寛

トヨタ自動車(株)の「トヨタテクニカルセンター下山」(下山TC)は、トヨタ本社から約15kmの豊田市と岡崎市にまたがり、2017年から施設工事が開始され、当社は建築外構の造園工事と残置と呼ばれる森林・水田の管理業務を担当し、2023年には自然共生サイトに認定されるなど環境に配慮した研究拠点である。

下山TCの緑化は、事業地内の在来種から種子を採取、苗木を育て活用するか、種子の自然侵入を待つ方針で進められた。今回の発表では東と西の2つの工区を紹介したい。

東工区では「草地の創出」をテーマに、テストコースに近く、高木植栽不可と来客向けの環境アピール力があることを条件に1600㎡のコの字形緑地で半自然草地の環境を提案し、当初は自然侵入促進工とのことだったが、近くに草の種の供給源がなく、種子採取・育苗の必要性を説明し理解を得た。

チガヤの種子吹き付けでベースを作り、草本セル苗を重ねるイメージで計画。種子は36種類を採取し、チガヤの発芽適期を検証するため、6月と9月播種で比較実験を行い、6月に播種して吹き付

け後に浸食防止シートを敷設する方法が有効であることを確認、実施した。

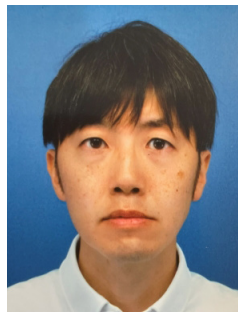
西工区は「草地による空間化」をテーマに、開発棟と来客棟を含む全長約400m、緑地面積19,000㎡の大規模緑地が計画された。課題は苗木植栽と現場発生石で大規模緑地をどう成立させるかということで、草地パターンの多様化と



西工区の棚田・谷津田をモチーフにした空間

水平基調の建築との調和からアプローチ。地域性苗による帯状の植栽と現場発生石を活用したグリーンインフラ（布団かご土留め）による景観を計画し、草丈の高低差による空間構成と管理頻度の設定を重視した。

下山TCの取り組みは民間緑地の草地創出の事例として大規模であり、竣工時の成熟度は低いものの、徐々に成熟を目指すプロジェクトとして大変貴重である。引き続き管理手法の確立に取り組んでいきたい。



## 古庭園再生のための造園技術―「綺麗さび」を世界へ

【関東・甲信総支部】 (株) 礪造園土木 礪 一弘

約25年の間、造園業に携わってきており、今回は、日本庭園の伝統技術を用いた庭園再生の重要性和、その技術が訪

日外国人観光客を魅了し、造園業界全体の地位向上につながる可能性について、2つの施工事例を紹介したい。



東京の靖国神社・神池庭園修復工事は、池の漏水に対して伝統的な技法を用いることで、一時的には安価なコンクリート施工よりも自然な風合で、25年間メンテナンスフリーの池の再生が実現した。

栃木県の高宗寺の庭園再生は、仏教の思想と鯉が滝を登り龍となる物語を表

現するため、さまざまな地域の石材を組み合わせ、最大17tの巨石を用いた滝組みなど、高度な造園技術を駆使。物語性のある庭園により、檀家や墓地購入者の増加という実質的な効果が得られた。

政府は、2030年までに訪日外国人旅行者数6,000万人、消費額15兆円という目標を掲げている。こうした中、日本庭園の魅力を世界に発信することは造園業界にとって大きなチャンスであり、造園業者の地位と待遇向上にもつながる。



## 造園事業管理プラットフォーム Karahai を使用した道路維持管理業務の効率化

【沖縄総支部】 金城 健太郎、比嘉 謙太

沖縄の造園業界で開発した造園事業管理プラットフォーム「Karahai」は2018年に樹木の在庫管理、2019年に

街路樹管理、2021年に道路維持管理とシステムを拡充。2022年の第14回造園技術フォーラムでご紹介させていただ

き、今回はその続編になる。

沖縄県は2022年に新・21世紀ビジョン基本計画を策定、この計画には「～美ら島沖縄～花と樹木の沿道景観計画」も含まれ、世界水準の観光地にふさわしい良好な沿道景観形成を目指している。

しかし、沿道に雑草が生い茂り、ハブ





に噛まれるのは山より道路の方が多く現状もあり、県は令和3年から性能規定型の維持管理業務を導入。草丈40cm未満の要求水準のみが定められ、達成方法は業者の裁量に任せられ、従来の回数規定型では夏と冬の草刈りだったが、性能規定型では除草剤の使用や成長調整剤の活用など多様な手法が許可されている。性能規定業務を4年間受注して、

Karahaiシステムを活用した結果、システムに月1回、全路線の定点を写真撮影し、予備資料として巡回動画を登録するだけで、業務報告が完了。施工前中後の写真撮影等は不要。さらに、発注者と受注者がシステムの情報を共有でき、書類作成のコストを大幅に削減。現場作業に注力でき、業務効率が大きく向上した。

沖縄は牧草の収穫量が全国平均の3倍と植物の生育が速く、維持管理のコストが掛かることもあるが、この取り組みは、他の地域でも生かせ、造園業の課題解決の一助になると発表させていた。

道路維持管理システム導入後の成果

人件費の削減（対象1カ月）	
現場責任者管理業務フロー	圧縮率
1. 実施路線の確認	33%
2. 工程管理	0%
3. 除草作業	0%
4. 管理業務	25%
5. 除草路線月報（モニタリング）	10%
6. 除草路線月報（動画資料）	50%
①現場責任者集計	-20%
②労務費（除草作業員）	-10%

作業内容（代理人）：納品物作成工数（日）			
受注業者	導入前	導入後	
A社	3日	1日	
B社	4日	1日	
C社	3日	1日	
D社	4日	1日	
E社	4日	1.5日	

## 海外における持続可能な街路樹マネジメント

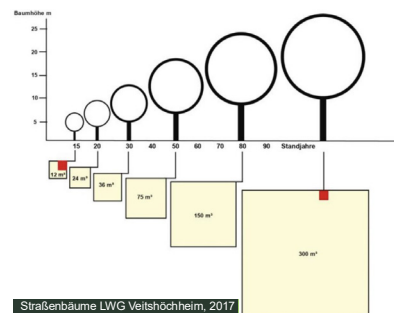
【国際委員会】 當内 匡

世界的な気候変動と都市緑化の重要性から、海外での街路樹拡充が進んでいる。EUの発表によると高齢者死亡の1/3以上が地球温暖化に関係し、年間12万人以上がPM2.5などの大気汚染で亡くなり、都市の緑を増やすことで年間最大4万3,000人の死者を減らせると試算されている。

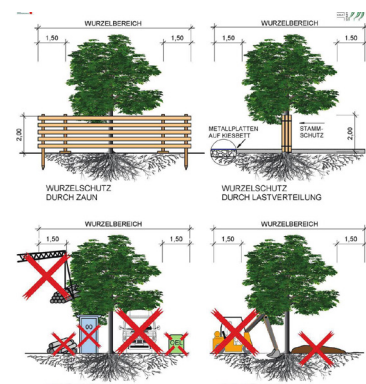
国際連合もSDGsの取り組みとして「アーバンフォレスト」（都市の緑の生態系サービスを森のように高める）を推奨。都市の樹冠被覆率30%がヨーロッパ各地で目標とされ、バルセロナでは樹冠比率が20%から25%に引き上げられた。海外の街路樹マネジメント技術は、特に「安全に樹木を大きく育てる」観点から、①適切な剪定技術：科学的剪定。枝の大きさを幹の太さの半分程度にする、建築限界に関わる下枝の適切な処理。②十分な植栽基盤：日本の植栽基盤は海外に比べ小さく、根上がりや倒木の原

因となっている。ドイツでは最低12㎡、開口部は最低6㎡とされている。③樹木保全技術：工事などにおける樹木の保護範囲を明確にし、適切に養生することが欧米では細かく規定されている。日本でも東京で「街路樹の工事における配慮エリア」が設定されるようになって

たが、全国的な広がりはまだ見られない。都市樹木は、生活ではなく生命に関わるものとの認識に変化している。アーバンフォレストの概念を日本の都市に普及することが求められている。



ドイツにおける樹木の樹齢と樹冠と植栽基盤面積



ドイツにおける樹木保護規定

## ランドスケイピング：まちと暮らしの景営

【日本造園学会】理事 武田 重昭 大阪公立大学農学部緑地環境科学科准教

ここでは、技術報告集や作品選集など、学会活動のお話をするところなのかもしれないが、今日は自分がお伝えしたいことで準備をしたので、学会の公式見解ではなく、個人的な意見として、造園技術と市民の生活をつなげることの重要性についてお話ししたい。イギリスの都市再生の指針をつくったアーバントラスクフォースは、都市再生の中心には、人々のニーズ、憧れ、参画がなければならないと言っている。都市の負債を資産に変えるためには、都市計画の専門家だけではなく、より多くのアー

バンストや社会起業家が必要だとされている。都市の主人公は市民であり、都市の文化水準は建物の美しさではなく、人間がどれほど自由か、子供がどれほど安全に遊べるか、自然がどれほど守られているかという「都市空間の社会性」によって決まる。「ガーデニング」を都市空間に拡大したものを「ランドスケイピング」と捉えてみたい。ガーデニングの魅力は、まずプロセスに意味があり、人と庭との対話、自然の

一部になる体験、変化への対応の学び、生き方の表現などであり、これらは都市空間でも実現できるのではないかな。ランドスケイピングがガーデニングと異なるのは、スケールの大きさ、構成要素の複雑さ、関わる人の数の多さ等だが、その分可能性も大きい。また、都市の魅力的な風景は、空間要素だけでなく、そこで生活する人々の活動によっても生み出される。公共空間の効果は「存在効果」「利用効果」「波及効果」の3つに分類でき、特に「波及効果」は、公共空間の利用を通じて都市全体に広がる効果であり、安全・安心、コミュニティ形成、シビックプライド（市民の都市に対する自負心）の醸成などが含まれる。

自治体のアンケートから、多くの市民が都市改善のための活動に参加する意欲は低いことが課題だが、シビックプライドはまちの魅力の根幹であり、まちの原動力である。こうした中で、造園の専門家の役割は、長期的な視点で風景と暮らしを未来につなげることなどである。経済優先の過剰なプロモーションではなく、持続可能な「まちと暮らしの景を営む」そんな市井の「景営者」たちを支える造園技術・専門家をめざしたい。



## 講評

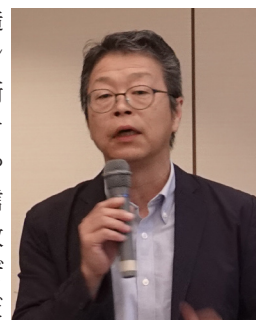
【日本造園学会】副会長 加我 宏之 大阪公立大学農学部緑地環境科学科教授

私が感動、勉強させていただいたことをお話しして、講評とさせていただきます。草地創出については、造園は主として木本を扱い、さまざまな検証を行い、非常に扱いにくい草地に取り組み、きめ細やかに対応され、生物多様性や日本のふるさとの風景に立ち戻って展開されているのは、素晴らしい技術だ。また、土木・建築の都合によって造園工事は後回しにされる中、種子採種時期、育苗期間のスケジュールを、お客様と共有して取り組んだ。そうした工程管理まで含めて、造園の空間ができあがるので、調整能力の素晴らしさにも感銘を受けた。

各時代の社会情勢を反映して作られた庭園がその後、必ずしも適切な管理がなされてない状況の中で、古庭園再生については、もともとあった設計思想を、現代に継承する形で読み取ることによって、再生するというもので、まさしく物語をつくっていくということだと思った。それにより、お客様や観光客が増え、経営が成り立つという素晴らしい技術を見せていただいた。沖縄は私も観光で出かけるが、南の方は雑草が繁茂しやすく、景観を維持するのが大変で、性能規定といった新たな手法とともに、特に公共造園は書類作りが

大変とされる中、現場に注力するためにシステムを構築して活用するところは、大変意義のあることであり、関西ではまだ取り組まれていないと思うので、展開されるといい。街路樹マネジメントでは、御堂筋の改修工事の話もあったが、車中心の道路から人中心の道路への転換で良好な空間ができあがると思っている。また、大阪市と意見交換をしたこともあるが、土木工事で根が傷められることが多くあり、ドイツやニューヨークの保護基準など、対応の必要性を再認識した。武田先生の発表は、造園の専門技術者として都市や町づくりに関わる際の発注者や市民とのコミュニケーション方法について示唆に富むものであり、今後、いろいろな場面で活用して欲しい。

また、日本造園学会の『ランドスケープ技術報告集』は、オンラインで速やかに社会に発信できるように改訂している。ぜひご活用いただきたい。最後に、今日は大阪公立大学の4兄弟揃っての登壇で、第2部で話される忽那さんが2つ上のお兄さん、小松さんが2つ下の弟、話を終えた武田さんが4つ下の弟になる。学に携わるものとして、今後の造園技術の発展に貢献できればと思っている。私たちへの講評も交流会でいただき、ともに向上していきたい。



## ブレスパイプ

樹木医が開発した筒型土壌改良材 特許第6656665号

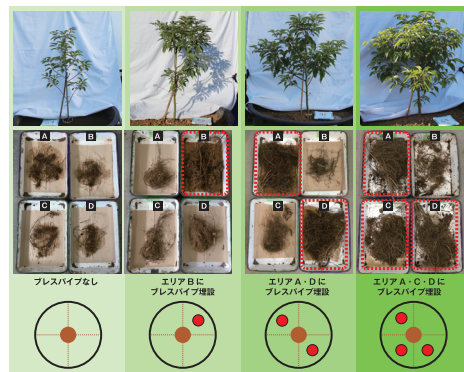
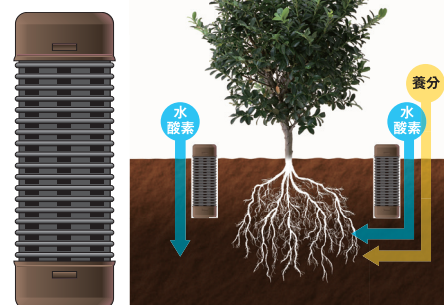
takagi

### ブレスパイプとは

ブレスパイプは土中に設置することで、根の水分、酸素、養分の吸収が改善し、根や地上部の健全な生育が可能になります。実験データからも、ブレスパイプが根の伸長を促進する事がわかり、さらに樹木地上部の生育も促進させます。

樹木の枯れ防止 樹勢回復 成長促進

ブレスパイプ



### ブレスパイプの効果

樹木を中心に土壌を4つのエリアに分け、ブレスパイプを1～3本埋設し、根の成長の違いを比較。ブレスパイプを埋設したエリアでは、ブレスパイプに向かって多くの根が伸長。また、ブレスパイプを多く設置したポットの根は全く設置していないポットよりも約5倍根量が増加。

株式会社タカギ

お問い合わせ  
w-mizuyari@takagi.co.jp



ふるさと自慢

## 愛知県 伝統工芸の「七宝焼き」と

## 尾張四観音筆頭「甚目寺観音

私のふるさととは、愛知県あま市です。

あま市は、名古屋市のすぐ西にあり、都会にも近いのに自然がたくさん残っている一方、交通の便もよく、大都市名古屋まで電車で20分ほどで行けるので、通勤・通学にも便利です。

都会の良さと田舎のあたたかさ、どちらも感じられるこのまちを、私はとても気に入っています。

あま市には、七宝焼という伝統工芸があります。

七宝焼は、金属の上にガラスの粉をのせて、色とりどりの美しい模様をつくる工芸品です。

市内にある「七宝焼アートヴィレッジ」では、国の伝統的工芸品にも指定されている「尾張七宝」の歴史や制作工程を見学でき、実際にオリジナルの七宝焼作りも体験することができます。

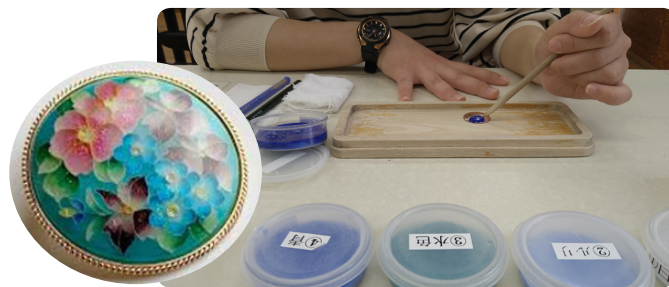


七宝焼アートヴィレッジの外観①と展示室②



それから、甚目寺観音という、江戸時代から尾張四観音の筆頭として尊崇を集めている有名なお寺もあります。

春になると境内には、美しい桜が咲き誇り、歴史ある伽藍と花々が調和して、訪れる人々の目を楽



七宝焼き

七宝焼き作りの体験



甚目寺観音

しませてくれます。

特に多くの参拝者でにぎわうこの季節には、家族連れや写真愛好家などが多く訪れ、華やかな雰囲気になります。

古き良き伝統と自然の美しさが共存するこのお寺は、地元の人々にとって心のよりどころとなっています。

また、近郊には田んぼや畑が広がり、新鮮な野菜やお米もたくさんとれます。近くの直売所では、地元でとれた食材が買えるので、とても人気があります。

このように、便利さや派手さはないかもしれませんが、心がほっとする場所、ふるさとの原風景がここにはあります。

そんなあま市の静かな魅力と、優しい人々の暮らしを、私はとても誇りに思っています。

愛知県支部 中嶋和敏（株中嶋造園土木）

日造協 ようこそ日造協へ！

## 新入会員のご紹介

社名 / 住所 ☎ 代表者 / FAX

(有)善勝園 佐藤 禪

栃木県大田原市須佐木 38-2

☎ 0287-57-0335 FAX 0287-57-0362

日造協賛助会員の紹介 (株)日本建設情報センター  
深刻な人手不足に直面する建設業界に、人材育成教育で貢献

(株)日本建設情報センター（CIC）は、建設業界に特化した技術者育成と資格取得支援を行う教育機関です。

施工管理技士をはじめとする国家資格対策講座を26年以上にわたり提供し、年間5万人以上が受講しています。

受講者の多くは現場で働く社会人で、「働きながらでも合格できる」環境を整えるためにオンライン講座を充実させています。

さらに、英語・ベトナム語・インドネシア語字幕付き講座も展開し、多様な受講者の学習を支援しています。

私たちは、深刻な人手不足に直面する建設業界において、教育の力で人材の育成と定着を図ることを使命としています。「出口のないトンネルなどない。」をス



ローガンに、造園施工管理技士をはじめ、すべての技術者が未来を描ける社会の実現を目指し、これからも挑戦を続けてまいります。

株式会社日本建設情報センター  
〒105-0003 東京都港区西新橋 3-24-10  
ハリファックス御成門ビル 5F/6F（受付）  
URL: <https://www.cic-ct.co.jp/>

## 「植栽基盤診断士」資格更新研修 8～9月に実施

「植栽基盤診断士」は、植栽基盤・土壌・植物・植栽に関する知識と経験があり、土壌調査・診断結果をもとにした処方能力を総合的に備え、植栽基盤“植物が良好に育つ土壌環境”を整える

- 対象者
  - ・当年末に有効期限を迎える方
  - ・有効期限が過ぎている方
- 更新方法
  - 以下の①～③すべてを行うこと
  - ①インターネットによる映像講義の受講
  - ②更新手数料の振込み
  - ③更新手続申込書の提出

※資格者専用ページにログインし手続き・申込書のダウンロードを行ってください  
※③はダウンロード・記入のうえ、所定の送付先までお送りください

●植栽基盤診断士認定委員会  
7/18 士補研修会修了試験の可否判定、士学科試験の開催と試験問題について審議

専門家です。

「植栽基盤診断士」資格は5年毎の更新が必要となり、2025年度の資格更新研修は8月より実施いたします。ぜひこの機会に受講ください。

- 更新手続き期間 8/1～9/30
  - ※7月下旬に対象者へ書類を送付
  - ※消印有効
- 更新手数料 11,000円（税10%込み）
- 更新後の有効期限 認定証に記載の有効期限から5年間
- 更新後の発行物 認定証（携帯用カード式のみ）
- 更新手続きを行わなかった場合
  - ・「植栽基盤診断士」の名称を使用出来ません。
  - ・次年度の更新期間まで更新手続きは行えません。
- その他のご案内
  - ・更新済み認定証は12月中に発送いたします。

●登録造園基幹技能者講習委員会  
7/24 2025年度の新規・更新計画、基幹技能者テキスト、試験問題について審議

編集後記 会社に行き仕事をして、美味しくご飯を食べ、夜になり眠る。当たり前のようで、何て幸せなことなのだろう。夏風邪をひき体温38.4度、布団の中でふと思う真夏の昼下がり。暑い日が続きますが、体調を崩されませんようご自愛ください。



## 好きなこと、心がよるこぶ時間

中央造園土木(株) 今村有美子 山梨県支部

私は自然と触れ合うことや手を動かす時間が好きで、定期的に参加している草木染めのワークショップは、その中でも特にお気に入りのひととき。

「染めて、縫う」の二部構成で、1回目は染め、2回目はミシンで仕立てます。

毎回顔なじみのメンバーで集まり、まるで大人の部活のような雰囲気。みんなでわいわい話しながら、自分のペースで作業を進める時間は安心感と楽しさに包まれ、心も緩み癒されます。毎回違う草花と出会えるのも楽しくて、「今回は何色に染まるかな？」とわくわく。

完成した作品には、季節の記憶や自然の優しさがギュッと詰まっていて、見るたびに嬉しくなります。

他にも定期的に通っているのが手作り石鹸教室。

香りや色を選んで型に流しながらデザインして、同じもの

には出会えない自分だけの石鹸。使えるようになるまでに1カ月待ちますが、完成した石鹸を見る瞬間がまた幸せで、お風呂タイム



ミシンでエプロン作り



生地へ本物の草花を並べる

手作り石鹸



自作の草木染めのエプロンが特別になります。自然素材で肌に優しいところもお気に入りです。

どちらも「こうでなきゃ」という決まりがなく、感覚のまま自由に楽しめるのが好きなところ。季節の移ろいや自然の恵みを感じたり、共に同じ時間を過ごす仲間と心あたたかな瞬間を味わうことは私にとって大切な癒しであり学びのひとつです。

ものづくりを通して『自分を大切に』時間となり、私の大切な軸になっているように思います。これからも心がよるこぶことを大切に、好きなことを少しずつ増やしながら日々楽しんでいけたらいいと思います。

11月までの記事構成、HPリニューアルにむけて審議

●財政基盤強化部会&会員拡大推進部会合同会議  
7/31 財政基盤強化策、会員拡大プロジェクトの推進等について検討

●造園技術フォーラム部会  
7/3 造園技術フォーラム（大阪）を開催

●安全部会  
7/8「造園安全衛生管理の手引き」の改訂、ロープ・フルハーネス特別教育の講師派遣、安全衛生経費の確認表等について審議  
7/8「造園ワークポジショニング作業」説明会を造園連と共催

●グリーンインフラ産業展 2026GIPF 実行委員会  
7/25 開催企画とシンポジウムについて検討

●地域リーダーズ会議  
7/7 3月の勉強会とルールブックの改定について審議

●全国造園デザインコンクール等推進部会  
7月末 応募要項を刷新し、全国の学校等へ発送

●緑地樹木剪定ハンドブック編集委員会  
7/9 改訂について、目次構成・執筆担当などについて審議

●植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）  
7/11 士補研修会修了試験の採点、士学科試験の開催と試験問題案について審議

## 事務局の動き

【8月】  
3(日)・若年者ものづくり競技大会～4(月)  
5(火)・広報活動部会  
20(水)・運営会議

【9月】  
2(火)・広報活動部会  
3(水)・造園技術フォーラム部会～5(金)  
4(木)・街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会（試験部会）  
・運営会議  
・造園技術フォーラム部会（DX事例発表）  
5(金)・全国事務局連絡会議  
16(火)・植栽基盤診断士認定委員会  
19(金)・緑地樹木剪定ハンドブック編集委員会  
21(日)・植栽基盤診断士認定試験（学科試験）  
24(水)・植栽基盤診断士認定試験（学科試験）採点  
26(金)・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）  
29(月)・植栽基盤診断士認定委員会

## 委員会等の活動

●広報活動部会  
7/1 日造協ニュース7月号の内容確認、2025年